

1. 2024 年度エコドライブシンポジウム開催概要

2024 年 11 月 22 日千代田区立内幸町ホールにて、エコドライブ普及推進協議会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団共催で、『2024 年度エコドライブシンポジウム～地球と走ろう環境にやさしいエコドライブで～』を開催しました。

取組事例として上越運送株式会社、株式会社利根川産業、沖縄トヨタ自動車株式会社、さいたま市役所から、それぞれの取組の概要、現状や成果、今後の課題などについてご紹介をいただきました。

(1) 開催概要

- 日 時：2024 年 11 月 22 日(金) 13:30 ～ 16:05
- 場 所：千代田区立内幸町ホール (東京都千代田区)
- 主 催：エコドライブ普及推進協議会
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
- 参加者数：約 85 名

(2) プログラム

- 1) 開会挨拶
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 会長 岩村 敬
国土交通省 総合政策局 次長 大野 達 氏
環境省 水・大気環境局 モビリティ環境対策課長 平澤 崇裕 氏
- 2) 2024 年度エコドライブ活動コンクール 表彰式
国土交通大臣賞：1 件
環境大臣賞：1 件
審査委員長特別賞：1 件
優 秀 賞：6 件
- 3) エコドライブの取組紹介
 - ① 2024 年度エコドライブ活動コンクール事業部門
国土交通大臣賞受賞事業者の発表
『当社のエコドライブ活動～継続そして継承へ～』
上越運送株式会社 取締役 齊藤 三十四 氏
 - ② 2024 年度エコドライブ活動コンクール一般部門
環境大臣賞受賞事業者の発表
『エコドライブへの取組 持続可能な事業運営のためのテクノロジー活用と SDGs の融合』
株式会社利根川産業 取締役部長 利根川 靖 氏
 - ③ 2024 年度エコドライブ活動コンクール支援ビジネス・ユニーク部門
審査委員長特別賞受賞事業者の発表
『燃費王 ～FUN TO ECO DRIVE～』
沖縄トヨタ自動車株式会社 平良 優之介 氏
 - ④ 2024 年度エコドライブ活動コンクール事業部門
優秀賞受賞事業者の発表
『エコドライブ活動に関する取り組み』
さいたま市役所 主査 米澤 義徳 氏

<会場写真>



会場



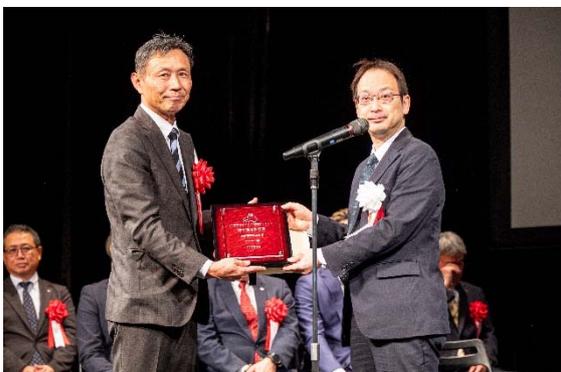
開会挨拶(エコモ財団)



開会挨拶(国土交通省)



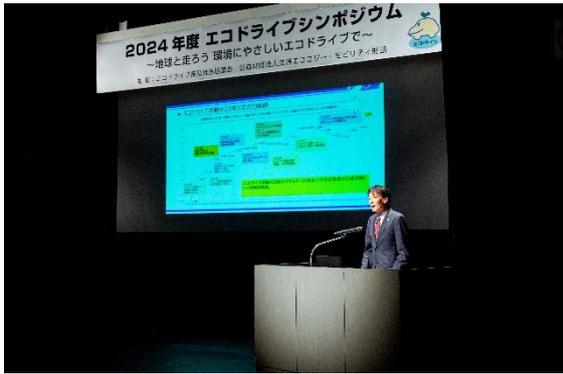
開会挨拶(環境省)



国土交通大臣賞授与



集合写真



国土交通大臣賞受賞事業者の発表(上越運送株式会社)



環境大臣賞受賞事業者の発表(株式会社利根川産業)



審査委員長特別賞受賞事業者の発表(沖縄トヨタ自動車株式会社)



優秀賞受賞事業者の発表(さいたま市役所)

2. 2024 年度エコドライブ活動コンクール表彰式

- 国土交通大臣賞
事業部門 上越運送株式会社
- 環境大臣賞
一般部門 株式会社利根川産業
- 審査委員長特別賞
沖縄トヨタ自動車株式会社
- 優秀賞(6件)
事業部門
SBS 三愛ロジスティクス株式会社 物流センター宮城第二
F-LINE 株式会社 栃木物流センター
石原運輸株式会社
西濃運輸株式会社
一般部門
さいたま市役所
沖縄トヨタ自動車株式会社



国土交通大臣賞：上越運送株式会社



環境大臣賞：株式会社利根川産業

審査委員長特別賞



沖縄トヨタ自動車株式会社

優秀賞



SBS 三愛ロジスティクス株式会社
物流センター宮城第二



F-LINE 株式会社 栃木物流センター



石原運輸株式会社



西濃運輸株式会社



さいたま市役所



沖縄トヨタ自動車株式会社

3. エコドライブの取組紹介

(1) 2024 年度エコドライブ活動コンクール事業部門 国土交通大臣賞受賞事業者の発表

【上越運送株式会社】

『当社のエコドライブ活動～継続そして継承へ～』

上越運送株式会社 取締役 齊藤 三十四 氏

< 講演概要 >

- ・ 2003 年からエコドライブ活動を開始。20 年以上継続、現在 33.3%燃費向上。
- ・ 活動の主役はドライバーであるという全従業員の共通認識。
- ・ 管理職からなる「環境管理推進委員会」、各支店のドライバーからなる「環境保全活動委員会」を中心に活動を展開し、各支店内に「環境保全分科会」を組織。活動をボトムアップする。
- ・ 環境保全活動委員会で燃費年間目標を検討、環境管理推進委員会の承認を経て展開、分析・管理されたものは各支店にて教育に応用。
- ・ 燃費目標に達していない 4 割のドライバーには、デジタコ評価に基づいた個別指導を強化。
- ・ 副次効果として、事故の激減と年間修繕費の削減を実感。
- ・ 支店のドライバーが環境保全分科会にてデジタコの評価をもとに意見交換を行い、燃費結果の振り返りや改善提案をあげる。
- ・ 分科会であげられた意見は現場に反映され効果が表れている。
- ・ 社員全員が活動に参加できるよう、環境に関するイベント開催や実地教育機会の設定など組織全体のサポート体制を整えることが継続に繋がっている。
- ・ 次世代が安全安心で暮らせる社会のために、CO2 排出量削減は使命であると考えており、エコドライブ活動以外にも環境に考慮して業務にあたっている。
- ・ 近年、活動推進委員会のメンバー入れ替えにより若返り現象が生じており、活動の軸足が次世代に引き継がれている。
- ・ 「輸送効率化」「モーダルシフト推進」「積載率改善」等更なる燃費改善を図る。

< 講演資料抜粋 >

■ 個別指導の強化

5年連続で燃費改善率30%以上を達成し、2023年度は33.3%の燃費向上を実現しました。これは、ドライバーの意識向上と、環境管理推進委員会の承認を経て展開された活動の結果です。

デジタコ評価結果燃費改善率分布

燃費改善率	割合
30%以上	40%
20%以上	30%
10%以上	20%
10%未満	10%

燃費目標達成状況

燃費目標	達成率
燃費目標達成	60%
燃費目標未達成	40%

デジタルタコグラフ評価点数と燃費目標達成率には、明らかに相関関係が認められたことを受け、デジタコ点数低値者への個別指導を強化

■ 継続のための工夫...全社員が活動に参加

1. 環境管理推進委員会による活動の推進
2. 各支店の環境保全活動委員会による活動の推進
3. 各支店の環境保全分科会による活動の推進
4. 環境に関するイベント開催
5. 実地教育機会の設定
6. 環境に関するサポート体制の整備

■ 全社員がエコドライブ活動にかかわる

1. 環境に関するイベント開催
2. 実地教育機会の設定
3. 環境に関するサポート体制の整備
4. 環境に関する意識向上
5. 環境に関する知識の習得
6. 環境に関する実践力の向上

■ CO2排出削減...次世代のために

会社全体のCO2排出量

年度	CO2排出量 (トン)
2019年度	400
2020年度	350
2021年度	300
2022年度	250
2023年度	200

(2) 2024 年度エコドライブ活動コンクール一般部門
環境大臣賞受賞事業者の発表

【株式会社利根川産業】

『エコドライブへの取組』

持続可能な事業運営のためのテクノロジー活用と SDGs の融合』

株式会社利根川産業 取締役部長 利根川 靖 氏

< 講演概要 >

- ・ 一般・産業廃棄物の回収およびリサイクルを担い、回収後のごみをリサイクルシフレークやペレットへの加工事業を行う。
- ・ すべての人に快適でクリーンな世界を提供することをミッション、働き甲斐のある会社づくりをおこなうことをビジョン、チームワークあふれる組織風土をつくることをバリューとし、この理念の基、全社で SDGs 経営に取り組む。
- ・ 2003 年からデジタコを導入、2011 年より本格的にエコドライブを始める。
- ・ 社内にエコドライブ推進組織を設置、計画・実行・評価を行う。
- ・ デジタコで 3K(急発進・速度超過・急減速)をモニタリング、改善指導を実施。
- ・ 無駄なアイドリング防止のため、廃棄物の回収を最適化し作業時間を削減。
- ・ 業務管理プラットフォーム「kintone」で燃費データを管理、燃費の改善率や事故減少数などを可視化、CO2 排出量は、現在ピーク時の 23%削減。
- ・ GPS 搭載タブレットの収集運搬システムにて走行軌跡の可視化、効率的なルート選択が可能となり、無駄な走行の減少と燃料消費を最適化する。
- ・ 教育とモチベーション管理を継続し、エコドライブ実施を推進。
- ・ 社内表彰制度で優秀なドライバーの燃費基準の改善率や 3K の数値等を評価。
- ・ チャットツール「LINE WORKS」を活用、社内の情報共有をはじめ、運転状況の迅速なフィードバックやドライバー教育のコンテンツ(KYT・事故指導・Respect The Law38)を実施、教育指導の時間効率化につながる。
- ・ 地域の環境教育に参加し、エコドライブ活動を広める。

< 講演資料抜粋 >

The presentation slides are as follows:

- 見える化 (Visualization):** Displays various charts and graphs showing metrics such as driving distance, fuel usage, improvement rates, CO2 reduction, and accident reduction. The text states: "グラフなどで実績の数値、走行距離、燃料使用量、燃費改善率、CO2削減量、事故減少数などの具体的な数値を示すことで、実施の効果を視覚化" (By showing specific numerical values for performance, driving distance, fuel usage, improvement rate, CO2 reduction, and accident reduction with graphs, the implementation effect is visualized).
- 2024年労務管理の上限規制 (2024 Labor Management Upper Limit Regulation):** A flowchart titled "コーン稼働時間短縮プロジェクト" (Cone Working Time Reduction Project) showing the process from "労務管理の強化" (Strengthening labor management) to "労務効率化" (Labor efficiency) and "運転手の確保・育成" (Driver retention and training), leading to "安全運転教育を推進" (Promoting safe driving education).
- テクノロジー活用 (Technology Utilization):** Titled "テクノロジー活用で事故削減、安全と安心を実現" (Achieving accident reduction, safety, and peace of mind through technology use). It lists three technologies:
 - ドライブレコーダー (Dashcam):** "すべての車両に専用記録用ドライブレコーダーを装着し、走行中の映像（音声付）を記録、活用" (Equip all vehicles with dedicated recording dashcams to record video (with audio) during driving and utilize it).
 - コーナーセンサー (Corner Sensors):** "バック駐車時の感測するため、強化型ドライバーへの教育を実施" (To measure during reverse parking, implement education for enhanced drivers).
 - デジタルタコグラフ (Digital Tachograph):** "デジタルタコグラフセンサーを元に、燃費改善指導を輸出し、燃費向上を実現" (Based on digital tachograph sensors, export fuel improvement guidance to realize fuel efficiency).
- 広報活動 (Publicity Activities):** Titled "広報により環境関連の取り組みを発信し、人々の意識を高め、持続可能な社会づくりに貢献できると考えます" (We believe we can contribute to building a sustainable society by disseminating our environmental activities through publicity and raising people's awareness). It shows social media icons for Instagram, TikTok, X, and YouTube, along with a "ブログ" (Blog) icon.

(3) 2024 年度エコドライブ活動コンクール支援ビジネス・ユニーク部門
審査委員長特別賞受賞事業者の発表

【沖縄トヨタ自動車株式会社】

『燃費王 ～FUN TO ECO DRIVE～』

沖縄トヨタ自動車株式会社 平良 優之介 氏

<講演概要>

- ・ 2022 年沖縄のトヨタ販売店 4 社が統合。沖縄トヨタ自動車株式会社に吸収・合併。新たにモビリティカンパニーとして事業を展開。
- ・ 年間新車登録台数(2023 年,除軽)は 14,729 台で、沖縄県内の 50%を超える。
- ・ 沖縄県の世帯当たりの自動車保有台数は全国平均より多く、観光客による自動車(レンタカー・タクシー・バス等)の利用も多いため、交通渋滞が深刻化。
- ・ 交通死亡事故 0 とカーボンニュートラルの達成で、沖縄の美しい自然環境を次世代に残すことに貢献する。
- ・ 燃費王サイトにて、社員の燃費管理分析を行い、ランキングなども掲示。
- ・ エコドライブに関する情報をメールで社内に発信、社内研修などでも資料を用いて日常的に社員教育を行う。
- ・ 社内キャンペーン「エコドライブ強化月間」では期間中の燃費王サイト利用率や燃費達成者率を部署ごとに競う。
- ・ 燃費、事故件数ともに効果が表れている。
- ・ スマイルライスプロジェクトでは、他の企業と連携し、エコドライブを行うことで溜まる「エコポイント」を支援金として換金、こども食堂にお米券を寄付。
- ・ 沖縄県交通遺児育成会や、島々の医療をつなぐ NPO 法人メッシュ・サポートに寄付贈呈。
- ・ 国連エコドライブカンファレンスに参加。
- ・ 一般ドライバー向けに燃費王決定戦を開催、トヨタの HV 車で燃費を競う。
- ・ 沖縄県の大会から現在九州のトヨタ販売店と連携し九州沖縄大会に発展。

<講演資料抜粋>



**(4) 2024 年度エコドライブ活動コンクール事業部門
優秀賞受賞事業者の発表**

【さいたま市役所】

『エコドライブ活動に関する取り組み』

さいたま市役所 主査 米澤 義徳 氏

＜講演概要＞

- ・ 人口約 135 万人、面積 217 ㎢。平成 13(2001)年 5 月に浦和市・大宮市・与野市の 3 市合併により誕生する。平成 17(2005)年 4 月には岩槻市と合併。平成 15(2003)年 4 月に全国で 13 番目の政令指定都市に移行する。
- ・ 職員数は 16,322 人(令和 6 年(2024)年 4 月 1 日現在)車両台数は 1,207 台(令和 5(2023)年度中の保有台数)。
- ・ 平成 17 年 2 月に「さいたま市交通環境プラン」を策定、平成 20 年 10 月 17 日に「さいたま市生活環境の保全に関する条例」を制定するなどエコドライブに関する規定を設けることでエコドライブ活動のきっかけとする。
- ・ 市民や事業者へのエコドライブ普及の前に市職員がエコドライブに取り組むよう平成 20 年 4 月 1 日に「さいたま市エコドライブ取組方針」を策定し、自動車学校のエコドライブ研修に参加するなど、エコドライブ教育を実施。
- ・ 通勤時はスマート通勤＝エコ通勤(原則マイカーを使用しない)+エコドライブ通勤(やむをえずマイカー通勤をする場合は、必ずエコドライブで)をするよう「さいたま市スマート通勤取組方針」を策定。
- ・ 毎月 22 日を「エコドライブの日」とし、職員に啓発を行っているほか、市民や事業者に向けて、エコドライブシミュレーターやパネル展示など公的機関である強みを生かし、エコドライブの普及のために、さまざまなイベントや紙媒体(市報・公共施設掲示板など)・電子媒体(ホームページ・SNS・TV など)を通じて啓発活動を展開。
- ・ さいたま市を含む九都県市においても、講習会やデジタルサイネージによる啓発を行い、広域的に活動の幅を広げる。

＜講演資料抜粋＞

<p>7/36</p> <p>条例を制定するにあたって、市職員が組織的にエコドライブに取り組んでいないそもそも、エコドライブ自体を知らない職員も・・・</p> <p>↓</p> <p>市民・事業者へのエコドライブ普及の前に、まずは市職員が率先行動を!</p> <p>平成 20 年(2008)年 4 月 1 日(条例制定の半年前)「さいたま市エコドライブ取組方針」策定、エコドライブ活動を開始</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公用車の使用削減(極力、公共交通機関や自転車等を利用) 2 平成 22(2010)年度までに、市職員のエコドライブ実施率(5 項目以上)を 100%に【現在の目標】令和 7(2025)年度末 エコドライブ実施率(5 項目以上) 100% 3 公用車の走行距離あたりの CO₂ 排出量を平成 18(2006)年度比で 5%削減(消防局等の自動車を除く)【現在の目標】令和 7(2025)年度末 3.5%削減 	<p>11/36</p> <p>(1) 職員へのエコドライブ活動(2/6)</p> <p>職員向け実車教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内教習所の御協力により職員がエコドライブの実技を学ぶ ・ 平成 26(2014)年度から実施(延べ 158 人が受講)
<p>26/36</p> <p>(2) 市民へのエコドライブ活動(7/8)</p> <p>イベントでの啓発</p> <p>昭和レッズホームゲーム PRブース出展</p> <p>さいたま市主催「健康フォーラム」</p>	<p>32/36</p> <p>九都県市での取り組み(1/3)</p> <p>九都県市×JAFエコドライブ講習会</p> <p>JAFや自動車教習所と連携して講習会を実施 「講習前走行 → 座学講座 → 実車教習 → アドバイス」</p> <p>今年度、5 年ぶりに開催</p>